

新型コロナウイルス感染症の予防接種を受ける方へ（説明書）

～よく読んでから予診票を記入しましょう～

1. 新型コロナウイルス感染症とは

新型コロナウイルスに感染することによって起こります。

新型コロナウイルス感染症の症状は、発熱やのどの痛み、せき、頭痛、倦怠感（だるさ）などです。下痢・おう吐、嗅覚・味覚障害も起こることがあります。

特に高齢者や基礎疾患のある方が感染すると、重症化リスクが高いとされています。重症化を予防するためには予防接種を受けることが有効とされています。

2. 新型コロナウイルス感染症予防接種の効果と副反応

(1)効果

新型コロナウイルス感染症のかかった場合の入院や死亡等の重症化等を予防する重症化予防効果が認められたとされています。

ただし、予防接種を受けてから免疫がつくまでに1～2週間程度かかります。

また、免疫がついても発症を予防する効果は100%ではありません。

(2)副反応

○注射の跡が、赤くなったり、はれたり、痛むことがあります。

○熱が出たり、寒気がしたり、頭痛、下痢、筋肉や関節の痛み、全身のだるさなどがみられることもあります。

○副反応の大部分は接種数日以内に回復しています。

(3)重大な副反応

○まれではありますが、ショック、アナフィラキシー様症状が見られることがあります。これらは、ワクチンに対するアレルギー反応です。

接種後、比較的すぐ（接種後30分間以内）にあらわれることがあります。発汗・顔が急にはれる・全身にひどいじんましんが出る・吐き気や嘔吐（おうと）・声が出にくい・息が苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応です。

○ごくまれではありますが、心筋炎や心膜炎を疑う事例が報告されています。

○これらの副反応が出現したら速やかに接種医に相談してください。

必ず裏面もご覧ください

3. 予防接種を受けることができない方（接種不適応者）

①明らかに発熱のある人（通常は37.5℃以上を指します）

②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人

③ワクチンの成分に対しアナフィラキシー等の重度の過敏症の既往歴がある人

④その他、医師が不適当な状態と判断した場合（具体的には、医師とご相談ください。）

4. 予防接種を受ける際に注意が必要な方

①過去に免疫不全の診断を受けた人、近親者に先天性免疫不全症の人がいる人

②心臓、腎臓、肝臓、血液疾患や発育障害などの基礎疾患のある人

③過去に予防接種を受けて、接種後2日以内に発熱や全身性の発疹などのアレルギーが疑われる症状がでた人

④過去にけいれんを起こしたことがある人

⑤ワクチンの成分に対して、アレルギーが起こるおそれがある人

上記のいずれかに該当する場合は予診票に記載した上で、医師が予診を行います。

5. 予防接種前の注意

①予診票はよく読み、現在の体調や治療中の病気、アレルギーの有無等について正確に記入してください。

②現在、治療を受けている方、薬を飲んでいる方は、予防接種を受けてもよいかどうかをかかりつけ医に必ずご相談ください。

6. 予防接種後の注意

①予防接種を受けた後30分間は、急な副反応が起こることがあります。医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。

②副反応の多くは24時間以内に出現しますので、特にこの間は体調に注意しましょう。

③入浴は特別な問題はないと考えられています。注射した部位は清潔を保つように心がけ、強くこすらないようにしてください。また、体調が悪いときは、入浴を控えることも検討してください。

④接種当日は、激しい運動や飲酒は避けましょう。

7. 健康被害救済制度について

予防接種を受けた人は、病気にかからない・かかりにくい・たとえかかっても軽い症状で済むという大きな効果がありますが、非常にまれに健康被害（脳炎や神経障害などの重い副反応）が生じることもあります。

定期の予防接種を受けて健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく健康被害救済の給付の対象となります。

【問い合わせ】 八千代町健康増進課**予防係** （八千代町保健センター内）

電話0296-48-1955 FAX0296-48-0309

問い合わせ時間 午前8時30分～午後5時（土・日・祝日を除く）